

教育ジャーナル

2018
12

【特集】 特別支援教育/インクルーシブ教育

共生社会の実現のために、 学校が果たす大きな役割

「共生・共育」を目指す静岡県取り組み
教育ジャーナリスト 渡辺 研

【第2特集】 ある視点 カリキュラム・マネジメント

小学校 午前5時間制の仕組みと意味

東京都目黒区のチャレンジングな取り組み
教育ジャーナリスト 和田 成



ひと様
荒川 勝己

<http://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>

この機会が
荒川 勝己
の原点が
ある。保
教諭とい
う職業は
自分の多
くの思い
をこめて
子どもに
伝えるこ
とが大切
だ。その
ために、
子どもに
対しては
「できるこ
とをやらせ
る」とい
うことを
大切に思
っている。

「できるこ
とをやらせ
る」とい
うことを
大切に思
っている。

「できるこ
とをやらせ
る」とい
うことを
大切に思
っている。

「できるこ
とをやらせ
る」とい
うことを
大切に思
っている。

「できるこ
とをやらせ
る」とい
うことを
大切に思
っている。

トラブルをスキルアップに！
教師といふ職業は自分の多くの思いをこめて子どもに伝えることが大切だ。そのために、子どもに対しては「できることをやらせる」ということを大切に思っている。

「できることをやらせる」ということを大切に思っている。

「できることをやらせる」ということを大切に思っている。

「できることをやらせる」ということを大切に思っている。

情報・クレーム対応アドバイザー 関根真一の 教師のための苦情学 第21回

「トラブルを一人で抱えず 共有できる場をつくる…」

誰にでもある仕事上の失敗や後悔は、抱え込まずに出すことで解決のサポートを得て、次へのステップへとつながっていきます。

トラブルがトラウマになる
苦情・クレーム対応の相手をされるなかで思ふのは、トラブルを起こしやすくない、つまりトラブルメーカーは、正論を待たずに言ひついで他人の首に耳を刺す、かなたんな態度を連発するタイプが多いということです。人間関係とは、自分と異なる他人との関わりによるものですから、柔軟な態度と対応が求められます。このトラブルメーカーたちが、その対応に苦しむのはわかっていたら、どうしようかと、

先方のカンニングアウト
学校に行ってきたら、この学校は昨年と違って年目の対応が、
先日、講演依頼を受けて中部地方のある中
講演会の翌日、先生方と懇話会を開催
定していただき、35人はの先生が集まら
した。その場で現在、抱えている悩みや問題
を聞くことができ、最初の先生がこんな話を
してくれました。
「数年前、私が小学校の教師をしていたとき
のことです。1年生のクラスに友達のない5年生
が遊びに来て、当時、抱持していたトレー
インカートの見せ合いをしていました。1
年生の男の子の父親が多くのカードを買
取戻すよう言われたのですが、5年生の男
子が「もう無いカードもある」ということ
で、すべのカードに戻つてしまいました。あ
のときの対応についてどうすればよかったの
か、今でも胸に刺さっています。
学校の現場ならではのトラブルです。

「抱え込んでトラウマにならない」とい
どの人にも当てはまることだと思ひます。自
分にはトラウマなんではない」というのであ
れば、それに越したことはありません。
カンニングアウトといふは、適に男子教
え子からLGBTの相談を受け、困惑した先
生もいました。こうしたデリケートな問題も
今後、ますます増えていくことでしょう。機
能に合ったネットでのトラブルなども含め、
問題を先生方が一人で抱え込まないよう、学
校にも対応していく必要がありそうです。